

地域活性化のための“起爆剤”に！

特定非営利活動法人 子育ては親育て・みのりのもり劇場
理事長 伊豆田 千加 さん
事務局長 森 淑子 さん



「想いをカタチにし、発信する人」が増えたら地域はもっと元気になります。
「うちの地域でも始めてみたい」と思う方は、みのりのもりに遊びにきて下
さい。なにか感じて頂けることがあるかもしれません。(伊豆田さん)

こんな子育て支援があったら面白いだろうな…と、「わくわく」からスタート
した活動です。子どもはのびのびと、大人はいきいきと暮らせるような地域
ができていったらうれしいですね。(森さん)



大映通り商店街のど真ん中にあるうずキネマ館
2Fがみのりのもり劇場の拠点。1Fの「キネマ・
キッチン」は商店街のコミュニティスペースとし
てにぎわっています。

特定非営利活動法人「子育ては親育て・みのりのもり劇場」
は、子どもが子どもらしく暮らすなかで、豊かな人生のため
に必要な力を自然に身につけ、成長していくために、「地域
と関わる親子」「親子を支え、共に成長する地域」の実現に
取り組み、親・子ども・地域の三方向から包括的な支援活動
を展開しています。

かつて多くの映画会社が撮影所を置いていたことで知ら
れる大映通り商店街。現在では映画関係者だけでなく、観光
客でもにぎわいを見せている通りを歩いていると、多様な世
代の人で賑わっている建物が見えてきます。「うずキネマ館」
と大きく看板を掲げ、おしゃれな中にどことなく懐かしさ
を感じさせる建物の2階に、「みのりのもり」は事務所を構え
ています。1階には食堂があり、地域の方々が打合せや会議
として使用するなど、大映通り商店街と連携して昼も夜も地
域の人たちの憩いの場として活用されています。

■お母さんどうしのつながりから始まった子育て支援活動■

伊豆田さんと森さんは、子どもが通う幼稚園で出会いました。卒園後、二人は園長先生から「お母さんが楽しみながら子育てを学べる取組ができないか」と相談を受けました。そこで普段あまり子育てセミナーなどに行かないお母さんが「参加してみたいな」と思うようなやり方を…と思いついたのが「子育てあるある劇場付セミナー“子育てJOYトーク”」です。現役お母さんが演じるリアルでユーモラスな子育て劇は大受け！笑いに笑った参加者はすっかりリラックスして、赤裸々に自分の子育ての悩みを語り合い、セミナーは大成功となりました。「いわば“客寄せパンダ”」のつもりで始めた子育て劇ですが、お母さんたちの反応からその価値に気づかされました。みんな同じなんだという安心感を得ることがで

き、また、笑いの中でたくさんの気づきが生まれます」と森さん。このとき“女優”として集まった保護者仲間が中心となり 2007 年に「子育ては親育て・みのりのもり劇場」の活動が始まりました。責任感を持ってずっと活動を継続するためにはどうしたらいいか相談し、2009 年に NPO 法人格を取得。現在は大映通り商店街に拠点を構え、“子どもと地域”をキーワードに、様々な活動を展開しています。



お母さんたちの大好評の子育て JOY トーク

■気がつけば商店街に溶け込んでいた■



商店街振興組合や京都外国語大学学生と協働で開催—太秦こどもまつり—

「最初は地域に馴染むために、レレシのおじさんみたいに掃除と挨拶から始めました。」と話す伊豆田さん。とはいえ、商店街で活動を始めた当初は「NPO のような何売ってるのかわからんもんは要りません」とはっきり言われたこともあったそうです。

「みのりのもりがやろうとしていることは、自治会・町内会・商店街・NPO がそれぞれで完結しない地域の作り方なんです。」子どもたちがのびのびと大人たちは楽しく暮らせるようなまちづくりの在り方のために、企画の中に NPO だけでは解決しない町の仕掛けをつくっていくことで既存の組織や枠を越えた有機的な連携を生みだそうとしています。

そうこうするうちに、最近では「みのりのもり」の活動を聞きつけた様々な自治会の方々が、「何か一緒にできないか」とよく訪ねて来られるようになったそうです。

現在では、右京区のまちづくり区民会議の運営パートナーを担うほか、商店街の専務理事も兼任されている伊豆田さん。「いつのまにか居座っちゃったみたいな感じです。」とやんちゃ坊主のように語っておられましたが、商店街の“新しいものを受け入れていく度量”に、ずい分助けられている様子です。

■なるべく地域主体で…■

「なるべく地域の人たちとやっていきたい」と語る伊豆田さん。「右京じかん」というフリーペーパーの作成・発行では、最終的に「右京区民全員が載った」ということを目標に、みのりのもり劇場の中に編集部を設置し、自分たちで企画から取材・発行まで行っています。また、商店街にずらっと将棋盤を並べて地域の子どもと大人が将棋をする「床机（しょうぎ）で将棋（しょうぎ）」という取組を印象的だった事例としてあげられ、「自治会や町内会や商店街と言った地域が前面に出て主体になって取り組む方が効果がある」と語られました。



大映通り商店街の新しいシンボル大魔神！活性化の守り神として期待されています。

■今後の展望■

「地域でなにか始めてみたいという方がいたら、一度みのりのもりに来てみて下さい。“自分にもできる事がある”と思ってもらえると思います」力強くそう語る伊豆田さん。着実に地域を支えてくれる子どもや元気な大人を育てている「みのりのもり」。

そんな「元気なお母ちゃん的なNPO」が最大限力を発揮して地域を活性化させていくためには、それらを受け入れる地域の度量も問われてきます。NPOの底力もちろん重要ですが、同様に、自治会・町内会・商店街といった地域が、どれだけNPOのような新しい風を受け入れ、協働していけるか、今回の事例から学べることは多くありそうです。



毎月第二土曜日に近隣幼稚園の園庭で開催している「太秦手づくり二土の市」には、こだわりの手づくり品のお店やパフォーマンス、昔遊びコーナーなどお楽しみがいっぱい。



住民・企業・行政と力を合わせて実現した嵐電パトトレイン。右京のヒーロー嵐パトマンも登場！